

ページ	質問議員	質問事項
7	奥田とみ子	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定疾患患者見舞金制度について ● 男女共同参画の視点から災害対策を考える
8	水上邦雄	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域防災計画の策定について ● 震災対策計画について ● 震災予防計画について ● 地域コミュニティと行政の協力による防災対策 ● 救援・救護活動について ● 震災復旧・復興対策計画について ● 風疹対策について ● 小型家電リサイクルについて
8	齋藤照夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共下水道について
9	毛塚眞一	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化事業の拡大について ● 防火対策 ● 水の事故
9	青木久男	<ul style="list-style-type: none"> ● ジョギングロードの安全対策 ● 通学路の安全対策
10	大沢 淳	<ul style="list-style-type: none"> ● SNSによる情報発信 ● 交通安全対策 ● 町税の延滞金の減免制度 ● 保育所待機児童の実態と解消に向けて ● 放課後児童クラブの大規模化解消に向けて ● 小針中学校の大規模化 ● 教育現場から体罰を一掃するために ● 学校給食のあるべき姿
10	上野尚徳	<ul style="list-style-type: none"> ● 友好都市協定について ● SNSを利用した町のPRについて ● 消防通信指令業務の共同運用について ● 障害者の就労施設について ● 将来の人口と高齢化について
11	中原敦子	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館について



一般質問に8人が登壇

6月定例議会では8人の議員が一般質問を行いました。その中から主な質疑応答の要旨を、質問した議員の要約により掲載します。
 なお、会議中の発言と答弁の詳細は、伊奈町議会ホームページおよび図書館に備えてある会議録でご覧になれます。(8月下旬掲載)

▶ 伊奈町議会ホームページ

<http://gikai02.kaigiroku.jp/ina/>



避難所 伊奈中学校

特定疾患患者に見舞金制度を



おくだ
奥田とみ子
 議員

問 当町の特定疾患認定者数と、見舞金制度を実施する考えは。
答 平成24年3月31日現在の認定者数は280名。見舞金は財政状態が難しく実施は考えていない。しかし、

問 地域防災会議などの意思決定の場に、災害対応
答 生活支援事業を実施している。
問 男女共同参画の視点から災害対策を考える
答 それに変わる支援として

応に深く関わる専門職の女性登用をすべくでは。
答 防災関係者に、より多くの女性登用が必要になると考えている。今後も、女性の参加促進に取り組んでいく。
問 災害時要援護者一人ひとりの支援計画・体制の構築は。
答 災害時要援護者避難支援プランに基づき、個別計画を策定。平成25年6月1日現在の登録者は828名。個人情報保護法の観点から十分配慮し、各関係機関と情報を共有し、見守り活動、災害時の安否確認、避難誘導、援助をお願いしている。
問 図上で避難訓練ができるHUGの有効活用を。
答 HUGの貸出し、講師派遣を案内する支援をし、地域の防災力強化を図っていく。

震災対策 当面の目標(県)震度6弱
最終目標(町)震度7を想定



みずかみ けんじ
水上邦雄 議員

問 目標併記の理由は。

答 町独自のアセスメントを実施。綾瀬川断層による地震、震度7を設定。

問 防災会議に女性委員が複数以上必要。

答 防災会議に限らず、女性の積極参加を促す。

震災予防計画について

問 狭幅員道路、消防活動等円滑のため拡幅整備をすることをしているが。

答 総合的な視点に立ち整備を進めていく。

問 避難・物資拠点の増設予定は。

答 避難所の収容能力は最終目標に到達。防災備蓄倉庫増設検討している。

災害時要援護者支援を

問 要援護者の避難訓練も含め避難所の点検を。

答 避難所を活用した防災訓練、今後検討したい。

問 避難所に於ける障害に応じた対策を。

答 災害弱者配慮、状況に即した運営図っていく。

公共下水道について

下水道の接続状況は



さいとつてるお
齋藤照夫 議員

問 下水道使用区域内の対象の世帯数と加入率は何%か。

答 平成25年3月末現在で1万2千287世帯で、そのうち接続世帯数は1万1千619世帯である。加入率とすれば、94・6%である。

問 町としてどのような下水道加入促進の指導をしているのか。また、その周知方法は。

答 公衆衛生の向上、公共水域の水質の保全、また下水道事業の経営健全化の施策の一つとしても未接続世帯には、リーフレットの配布や個別訪問を実施すると共に「広報いな」などによりお願いをしている。
問 し尿浄化槽の下水道



下水道マンホール

ある。し尿浄化槽については期限を設定せず、広報紙による啓発や、個別訪問などあらゆる手段を通じて早期接続をお願いしている。

問 下水道未接続により、側溝より悪臭の苦情が町民の方よりあるが、その場合の町の対応は。

答 その原因となるお宅へ訪問し、状況を理解していただき早急に接続していただくよう、ねばり強く指導をしている。

文化事業の拡大について



けづかしんいち
毛塚 眞一 議員

花の交流イベントに

ついて

問 ガーディングの定着は、街並みの美しさや心の安らぎに繋がり、また見通しの良い庭は、防犯上からも安全性が高い。

「ばらの町、伊奈町」を更に演出するための、花の競演や町内全体の活性化を進めるための「花の交流イベント」は、

答 友好都市関係にあるつくばみらい市の間では、互いの花を植樹し合い、



見通しの良い、個性的なオープンガーデン

観光物産ブースを出店など花を通じた交流を既に深めている。

防火対策に必要な情報提供について

問 小屋裏への延焼防止のために、軒裏の防火構造が必要である。しかし施工精度や経年劣化による防火性能が低下する例もある。住宅構造材の防火性能、耐火性向上のため、住宅の防火対策に必要な情報提供は。

答 消防本部では、3月、11月の春季・秋季火災予防運動で住宅防火に大切な情報を、4つのポイントとしてお知らせしている。

水の事故の注意喚起について

問 プールや水辺での子どもたちの水の事故に対する注意喚起は。

答 児童に対し、着衣水泳の授業等を通じて、水の事故に対する心構えと実技を指導をしている。

ジョギングロードの安全対策について



あおきひさお
青木 久男 議員

問 栄6丁目北を起点に、綾瀬川沿いに北上する幅2メートル、片道6.3キロメートルのジョギングロードは、田園の中を新鮮な空気を吸いながら歩くとあって歩行者にも人気のコースだ。

田んぼの趣は季節により多彩で、川面に眼をやるれば鴨の親子連れがいたり、時にかわせみの飛翔に会うこともある。

最近、利用者から自転車に対する安全対策を求める声があがっている。私もこの道を利用してもっているが、自転車に突然脇を追い越されてヒヤッとしたことがある。



綾瀬川沿いのジョギングロード

自転車走行での利用上の注意看板は、先の起点にはあるが終点には無い。要所における看板の増設と表示の工夫をし、歩行者の安全対策を徹底すべきだ。

答 現在ジョギングロードに看板を4箇所設置して、利用上の注意を喚起している。

ここは県から占有許可を得ているところなので、県と協議しながら注意喚起の看板増設やジョギングロードの路面を活用するなどして、効果的な安全策を検討していく。

内宿地域、事故多発地点の対策を



おおさわ じゅん 大沢 淳 議員

答 信号機設置を強く要望している。

保育所待機児童の実態

問 不承諾数、待機児童数は。

答 不承諾数は55名、育休明けの入所予約者や家庭保育室入所者を除いた

待機児童は20名。

問 今後の待機児童解消の具体策は。

答 北部地域に27年度の開園に向けて準備をすすめている。中央保育所を廃止することに伴い、定員を拡大した民間保育園を誘致する。



事故が多発する交差点。信号機の設置が急がれます。

児童クラブの大規模化

問 40人程度の適正規模化を。

答 まずは充足率の高い小針北第一、第二の分割第三児童クラブの新設を学校敷地内に平成27年4月の開所を目指している。

教育現場から体罰を一扫

問 実態調査の結果は。

答 報告件数は0件だった。

小針中の大規模化

問 将来の予測は。

答 平成30年度から32年度が最大値、1,052人、27学級。教室の増設整備が必要になる。

問 トイレ、水道等の増設を。

答 使用の実態を把握し、適切に増設の必要性を検討する。

新しい風をおこし、未来を拓く町づくりの為、海外自治体との友好協定を



うえの なおのり 上野尚徳 議員

問 青少年の交流。相互の文化特性を生かした文化交流。海外企業とのビジネス交流等。幅広い交流により経済効果も期待される海外都市との友好協定を締結してみては。

答 海外の自治体との交流は指摘の通り町の未来

に新たな風を吹き込む事につながる。交流によるメリットを見極め、町のメリットを最大限生かせる海外との交流のあり方を研究していきたい。

問 利用率が高まってきたフェイスブック。手軽に情報を取得し拡散でき

答 現状、町内には無いが、近隣市の社会福祉法人が平成27年4月の開設を目指し準備を進めている。又、身体障害者等の雇用に配慮した特例子会社が一ヶ所ある。

問 不足解消の為、社会福祉法人や、特例子会社を誘致してみてはどうか。

答 現在、誘致の助成措置は考えていないが、進出事業者があれば、できる限りの支援をしたい。



消防通信指令業務の共同運用開始 消防の広域化は、今後の重要な課題

学校図書館に、専任司書配置の必要性は



なかほらあつこ
中原敦子 議員

問 新学習指導要領を実施していくうえで、学校図書館をどの様に利用していくべきか。

答 これからの学校図書館は、児童・生徒にとって、コンピュータの利用とともに、調べ学習やじつくりと文章を読み込み考える場として位置付け



小針中学校の図書館風景

られるとともに、情報センターとして機能する役割を担っていると考えている。

問 専任司書配置の必要性は。

答 専任司書の配置ができれば、それなりの効果が得られると考える。費用対効果を含めて研究していく。

問 図書館に新聞配備の必要性は。

答 新聞記事に対する感想・意見の記述・表明・読み比べなどの活動は、学習指導要領に示されている論述・レポート等の言語活動そのものであり、思考力、判断力、表現力の育成につながる。

現在学校では2紙の新聞を購入しているので、学校図書館に配架する様に指導していく。

各党派による
政務活動報告

※ 条例づくり交流会議 ※

視察地 福島県会津若松市

視察日 平成25年5月25・26日

会派 伊新の会・公明党・民主党
3党派合同

町議会では、議員活動の資質向上をねらいとし、各党派で、他の自治体の取り組みを視察調査したり、また、様々な研修を行うなど研鑽に努めています。

会津若松市で開催された住民と議会の条例づくり交流会議（地域の課題を解決するために）に、参加しました。この会議の参加者は地元、会津若松市議会を始め福島県内

の市町村議会、市町村民、そして、伊奈町はじめ全国の市町村議会議員（121名）・住民（46名）、合計17都県より167名が参加しました。まず、全体会議が行われ、講演のテーマは、課題を解決するために、住民と議会は何が出来るか。」後、会津若松市議会から「市民と歩む議会づくり」会津美里町議会から「地域の課題に議会はどう関わってきたか」の事例報告がありました。

第1分科会「どうする？公共施設 合併・人口減少とどう向き合いつのか」第2分科会「これからのまちづくり・夢を語り合おう！」に分かれ、検討。我々は第2分科会に参加しました。

議会改革の一步は議会のあり方を見直すこと。その為の道具が議会基本条例、住民との意見交換会、改革推進組織の設置であり、最終目的は、自治体の課題解決である。このことを再認識し、研修を終了しました。



条例づくり交流会議にて